



桑の緑

小坂小学校 学校便り

令和4年2月18日
文責：校長 江上 知男

自分の命は自分で守る！（火災避難訓練）

動画の一場面



訓練の様子(2年)



2月16日(水)に、火災避難訓練を実施しました。当初は「避難の訓練を行った後、消防署に協力いただき『消火訓練』まで行う」予定でしたが、コロナ禍で集会や消防署との連携ができないため、「動画視聴と簡易な避難訓練」に代えて実施しました。

まず、福岡市消防局から公開されている「現役消防士が教える！煙のこわさとその対処！」という動画を視聴しました。この動画では「火災で一番怖いのは『煙』であり、煙を吸わないためには「低い姿勢」や「ハンカチを口元に」だけでなく、他にも知っておくべきことがあること」を教えてください(内容を子どもたちに聞いてみてください…復習のために親子での視聴もおすすめです)。

その後、校内に非常放送を行い、各学年で避難方法の確認を行いました。避難訓練は「想像力」を発揮する必要がある難しいのですが、どの学年も本当に真剣に取り組んでいました。

私は、幼少時より自分の親から「泥棒は自分で持てる分だけしか持って行かんけど、火事は家も命も全部持って行く。下手すれば隣の家も持って行く。絶対火災だけは起こすな!」と言われ続けてきました。各ご家庭でも、火災防止を「親子の会話ネタ」にしていただければ幸いです。



インタビューの様子

「朝の登校見守り活動」への思い…

町教育委員会では、3・4年生の社会科学習で使用する「御船町のことを教材とした副読本」の改訂作業が行われており、小坂小では他校の先生とともに教頭先生や酒井先生が編集作業に当たっています。

その中の「地域の安全を守る」という内容構成のため、毎朝校門で「登校見守り活動」をされている上杉彦士さんと上口孝男さんに、酒井先生がインタビューをしました。

Q1：どれくらいの期間続けておられるのか？ また、始めるきっかけは？

- 上杉さんが13年ほど、上口さんが8年ほど続けておられる。
- 交通指導員としての活動やライオンズクラブとしての活動がきっかけになった。

Q2：なぜ長年続けておられるのか？ また、「やって良かった」と思うことは？

- 校門前はとても危険な道路なので、スピードを出す車から子どもの命を守りたい。
- 長年続けているので、子どもたちの名前もわかるようになった。最近子どもたち(小中高生とも)のあいさつが良くなり、交流できることが「喜び」になっている。

Q3：小坂小学校の子どもたちに伝えたいことは？

- 人は「あいさつ」や「笑顔」が大切なことをわかるとともに、命を大切にしたい。

本当に素敵なお二人です。副読本は、今のところ来年度末に完成の予定です！ 楽しみ～!!